

【ATC道標②】

今日は、アークテックコム(株)にて技術書類の作成を行っています豊原 信です。

Tel : 050-6864-6201
Fax : 050-6864-6202
E-mail :
m.toyohara@arcteccom.jp

信念と無限の可能性

今月は弊社の「道標」の続きの紹介を致します。

進歩するには無限の可能性 を信じる

仕事において新しいことを成し遂げるには、自分の可能性を信じることです。現在の能力をもって「できる、できない」を判断してしまっては、新しいことや困難なことをできるはずはありません。人間の能力は、努力し続けることによって無限に拡がるのです。

常に「人間の能力は無限である」と信じ、「何としても成し遂げたい」という強い願望を持ち続け、勇気をもって挑戦することが大切です。

このことは、「人間の無限の能力を信じる」と言い換えることもできます。

多くの人は、自分はそれほど優秀だとは思っていない。例えば、小学校の頃から何度も忘れ

物をしたし、試験でヤマが外れて50点以下の点数を取ったこともあった。だから、無限に近い能力が自分にあるなんて、とても信じられない。とこのように思うでしょう。それでもなお、「無限の能力があると信じなさい、そして信じても損はないです。」と言えます。

「能力」というのは、頭の良し悪しだけを言うのではなく、身体的な能力などもすべて含んでいます。つまり、「社会で生活するためのあらゆる能力」を指すわけです。例えば、実社会では、健康であることも能力のひとつと言えます。「私は大病をしたことはありませんし、風邪もめったに引きません。いたって健康です」と言える人は、病気がちな人に比べれば、「能力が高い」と言えます。

別の言い方をするなら、「能力は進歩する」と言い換えてもいいでしょう。健康について考えてみると、毎日朝晩に運動をすればしだいに身体は丈夫にな

っていきます。学力も勉強すればどんどん向上していきます。つまり、能力は進歩するのです。新しいことを成し遂げるには、この「人間の無限の可能性を追求する」または「人間の無限の能力を信じる」ということを実践する。つまり、能力を磨いて向上させるには地道な努力を積み重ねていくという、この1点しかありません。

また、同時に「常に創意工夫をする」ことも大切です。今日よりは明日、明日よりは明後日と、常に創意工夫を続けることで、小さな成功体験を積上げ自分の能力を高めることができます。

反対に自分の遭るべきことに限界を設けて、できない条件を山ほど挙げて、簡単にあきらめてしまう。これではいけません。人間には無限の可能性があるのですから、「やりようによっては、何とかなるのではないか」とこのように思うことから、可能性を追求していかなければならな

いのです。

そう言ったところで、確かに簡単にできるものではありません。それでも、「これは難しいから、うちにはできないだろう」と安易に結論づけてしまうことだけはやめるべきです。「何とかやれるのではないか」と無理やりにでも考える。そうすれば、次は「やってみよう」と、地道な努力を始めるようになるものです。尺取り虫が木の枝を這っていくようなものだと思われるかもしれません、進歩というものは、そういうことから始まっているものなのです。

フィロソフィーは無限の可能性の道標

フィロソフィーは心の持ち方と使い方を述べています。其々の考え方は判断基準を導く道標に成っています。心の状態を何にも制限を受けない、風土や文化や宗教や政治経済の しがらみ を受けない状態にして、本当に相手のために成ること、お客様の為になることを、フィロソフィーの中から持ってきて、自由に自らの思考の限界を取り除き、実践すべきことを四六時中考えると、その可能性が無限になると見えます。要は、雑念妄念を払拭して対象となるものなどを考え続けることが必要です。

もうダメだという時が仕事のはじまり

物事を成し遂げていくもとは、才能や能力というより、その人が持っている信念に基づく熱意や情熱、さらには執念です。すっぽん 龜のように食らいついたら離れないという気概がなければなりません。

強い熱意や情熱があれば、寝ても覚めても四六時中そのことを考え続けることができます。実在意識で考え続ける願望は潜在意識へ浸透していく、自分でも気づかないうちに潜在意識の作用で、願望を実現する方向へと身体が動いていって成功へと導かれるのです。

すばらしい仕事を成し遂げるには、燃えるような熱意、情熱を持って最後まであきらめずに粘り抜くことが必要です。

また、もうダメだという状態は、相手やお客様の要望する価値を創造して提供できない状況です。落ち着いて状況を分析すると、その原因は自分達の考え方や判断にあることが分かります。目の前に対策案があるのに諦めるのは軽率な判断と言えます。

一旦決めて始めたことを「諦

める」ということがあってはなりません。仕事を始めたら、自分の限界を設けないで成功するまでやり抜くのです。

とことんまでやって、やっぱりこれは駄目だとなった時、「もうダメだというときが仕事のはじまり」と考え、再度とことんやり抜くようにします。参考に、諦めたり、もうダメだと考えたりするのは工ゴの考え方です。

信念を貫く

仕事を進めていく過程には、さまざまな課題が出来てきます。これを克服しないと、目標を達成できません。

何か新しいことに挑戦する時は、反対意見やいろいろな障害が出てくるものです。そのようなことがあっても、諦めてはいけません。これらの障害を、高い理想に裏打ちされた信念でもってつき崩していきます。これらの障害から逃げることなく真正面から受け止め、その本質を捉え解決しながら進んで行きます。

信念を貫くには、ものの本質を見抜く力が必要です。これがなければ革新的で創造的な仕事は中々できません。

例えば、金儲けをしたい、もっと贅沢をしたい、というように経営者が個人の都合だけで事

2026年02月『ルリビタキ』号

業をやっているとしましょう。
すると、ちょっと問題に突き当
たると、「これを乗り越えればも
っと利益が出るかもしれないが
自分が受けるダメージも大きい
はずだ、それくらいなら、利益
は少し減るけれども、この問題
を避けて通る方がずっと賢明だ」
と考えて、後者を選んでしまう
でしょう。それは、事業経営に
おける判断基準を自分にとって
都合がいいかどうかという損得
勘定に置いているからです。こ
のような判断では、相手に不利
益を与えたり、ときには自ら非
合法なことにも手を染めたりし
かねません。これでは、軽蔑の
眼差しで見られるのも仕方のな
いことです。

これに対して、「人間として正
しいことを貫き、その結果、事
業を繁栄させ、従業員を幸せに
し、同時に社会にも貢献する」
という理念を持ち、その理念が
信念にまで高まっているなら、
易きに流れるということはない
はずです。

人間というのは面白いもので、
どんな困難に遭遇しようとも、
信念さえあれば、自分を励まし、
くじけずにやっていくことがで
きます。大事なことは、「その信
念があるか」ということです。

※2026年03月号に続きます。

* * * * *

豊原 信